



釈氏安
時寺俗
中兩并
者蓋法
陰陽七

人あらし三龍とびしてこれともゆくとありされともは此
國の氏及ぶる事を愧て人此神と受けざる偽りありし事崇行
録又載りり之礼とた又之ねとも云い内れ世にも天を
餘念にうりて之礼の礼にせむとされとては
の流とこれい家の之ねとする事いかに口とこと三業
とてらや申す相とわすすあり智度徳也い念い心か
うり男こはととたす念ともかゆいに之ねとて礼れ
ずもまを次に神明也再ねとてせとたすの神明と
は此流よりいへを衣生流流れために和心同慶の相とあり
つゝのまたい神也い家ふとあり法報意の之礼と後
そらごとくに黙るゝこのれ念ともいひこのめは生神
とてのよれ念神みのめ神横神ありいゆび去に神明と
あるはかして転二有念神とてす真追の破神破心記

いよく有念神とてい又八大慈念冥神とていあり
三龍成れがとけありい八等念流位のさる内徳三のれ
いよりとやうる帝同右位のちりには下りなま一月
の初夜和光日慶の神明やといり自中れ宗廟とあり
とてゆつる天照八幡等流神い念これ念二の有念神か
りまゝは神といひかゝる事といふたこれれ流位念
れはまゝの念念に一神とていりてありては礼とていり
再ねとたふあり加宿が事流位松抄ゆき上は公童と
の文といひていはしていよく之礼再ねは地と無迹といり
ありといり次に人間とた一礼とてありこれと念念の
しゝあり人万ふとて下あまはとていりていり
あらず又師匠とて念念とて念戴とていりていり
りていりやまゝとて念念とて念念の中は流位念念とあり

五三六

墓に及んと葬禮しつゝのちをこゝろと云ふ物と云ふれ
 りたりと云ふるはさきいふもにんといはれしころやまひのねん
 ころり成すしてすまひしころり又葬禮は神と云ふころり
 ころりなり印典に葬禮はつと事ありはははれりて授け
 殺のころりやそれまほりやうんくははははるる事系祀志系
 揚殺にみくころりいげはるる鬼神はゆりたりと云ふ
 ハ馬ころりたりおんころりたりてゆりころりころり

墓時則情

社時則下

禮記檀弓下篇云子路曰吾聞之也過墓則式過社則下陳
 師道思亭記云視廟社則思敬

向堂倍之前

不可致不淨

倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん
 倍と云ふはさきいふもにんといはれしころりやまひのねん

と云はれしは其の意は又端なるべしなり

公不同水面 壁石如水池

人を知るは其の意のさき人おほめせよと云ふ事なり
こゝろははがさなり入れば其もそはしくふさかた
ふさかたなりわしたるふさかたなりと云ふ事なり
それとわかれれば同なる事なり又水はくわりの水
さふふたふさかたなりと云ふ事なり又水はくわりの水
ふさかたなりと云ふ事なり又水はくわりの水
はくわりの水なりと云ふ事なり又水はくわりの水
やと云ふ事なり又水はくわりの水

左傳襄公三十年傳云鄭子產答鄭子皮曰人心不同如其面
吾豈敢謂子面如吾面乎後漢書卷十一曰呂強上疏陳事曰

尸子曰君如杆民如水杆方則水方杆圓則水圓西域記卷十
曰夫水也隨器方圓逐物清濁

不挽他人弓 不送他人馬

是は他人のたぐひと云ふ事なり又水はくわりの水
と云ふ事なり又水はくわりの水
はくわりの水なりと云ふ事なり又水はくわりの水
やと云ふ事なり又水はくわりの水

明心宝鑑下卷載太公謂武王曰好挽他弓為七奴愛騎他馬
為八賤

見前車之覆 乃後車之戒

君子不奪言于人

則民化惡矣

君子とんたあるまゝと云也人と度たも百姓なりとんしる人なるとん人のまゝ事となくいそれとわんひをだうりそれとみまうしとていれくごまひたもあこれんがむるまうり禮記曰君子不以言奪人則民作忠

あやあやんむるんこれ事まぬれ記のと務とまひんくられしうごもいぬたうくたうこ君子とん人ははまをけいんくんとけんんふより真意をさうんまうしうりあまのいんたをさうり務とれしうくまうしとわんひれ記のとんうりその理あまうしうりそふくくま味あわまもまぬの文いそれ事けりそりわ

入境而問禁

入国而问俗

入郷而问俗

入俗而问俗

入门而问讳

为教主人矣

君不夺臣諱

尊之若君也

うしひは入るはまのうしひふ入るまゝそのまは禁制の法と人まゝにだもあやまにわくを初れ舟の初れそのゆりれはあやあやまうしひ又まの内へ入るまゝのありまぬとひ一郷は入るまゝその郷のやまをばひ儀同の中よりあつたれそのまうしひをばひんれあまのつゝ入ていそのまゝ人のつゝあつてこれとらぬれわりのれいん人といふくそれとらぬのあらうとらやまゝいぬ又あまといふくまゝいぬ

らねりちんはあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに
まわらぐしあひまていふまにけりていふに

生るが貴者

習成智徳

聖人あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに

ハものちいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに

貴者未必富

富者未必貴

禮記郊特牲篇云天子之元子士也天下無生而貴者
皇侃といふ人が論の疏よりいふとみるに富と貴は必ず
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに
あつたればいふにけりていふに

そのぞとあり

白氏文集高者未必賢下者未必愚源信大師要集曰富者未必壽壽者未必富

隆富心多欲

是若る貧人

隆貧心欲足

是若る福人

たとい富ふはくわれども心は欲心ふまじく貧人たつるこ
とありしや一 龍世ふ我と云人ありしやわにふつる一
かどの人なりされども心は欲心ふまじく福人たつるこ
とありしや一 龍世ふ我と云人ありしやわにふつる一
てたつるこども貧人けりしやわにふつるこども福人たつるこ
とありしや一 龍世ふ我と云人ありしやわにふつる一

欲知是のほこひある人たれば福人となるべし孔子は龍世
欲回は過莫ふ事しとてそれありしやわにふつる一
たればとある人たれば福人となるべし孔子は龍世
まじくは欲心ふまじくは福人のまじくは福人のまじくは
とてしは棟宇れはまじくは福人のまじくは福人のまじくは
まじくは福人のまじくは福人のまじくは福人のまじくは
とらる人の縁縁とてまじくは福人のまじくは福人のまじくは
まじくは福人のまじくは福人のまじくは福人のまじくは
ありしや一 龍世ふ我と云人ありしやわにふつる一
たればとある人たれば福人となるべし孔子は龍世
たればとある人たれば福人となるべし孔子は龍世

遺教經云汝等比丘若欲脫諸苦惱當觀知足乃至不知足者
雖富而貧知足之人雖貧而富

小もほそき... ひかきいひ... 子一の母父母

不煩女申子 子一の母父母 不和者擬寛 成 惡敵の害

脚匠の... はともや... げても... とせら... のごん...

藤原制 戒之文 二尊院 直筆 異谷上人傳所 載有 異今正

め... み... ため... 来... とら... のた... と... ふ... 清... ち... 驚... 人...

童子

三

所載亦
非全文
耳

とありふるとは報の及とをばめては後の不徳とたのひ
れハ愚癡とては事なれとふくはつて停止まふ
といひくはつては事なれとふくはつて停止まふ
子小と連判の起つては事なれとふくはつて停止まふ
父母よこころをてはつては事なれとふくはつて停止まふ
父母よこころをてはつては事なれとふくはつて停止まふ

嗔 惡人ふ避

縲 杓如廻柱

馴 善人ふ離

大 船如浮海

せめとりふむるく又次の句れう海に善人よひくまねく
もたうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
れたくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

佛本行集經十六云愚癡之人被其繫縛如大着枷不得自在

嗔 善友を

如 麻中蓬莖

親 善友を

如 菑中荊曲

ほれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ほれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

遊仙窟
注曰美
人下咲
價直千
金一金
七兩也

又怒らんりあくれ養養とてふはらひもゆつちとてふも
又うたがりのあんにいそつれぬ一ふをりして何うつたに
ふとてうてうてうてうてとてふをありうてうてうてうて
燈燭の光輝輝師は流輝師は要覽師は要覽師は要覽師は要覽師は
次れがのうたはうてうてうてうてうてうてうてうてうて
これれはのうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
うてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
の果とえうりも耀輝師は流輝師は要覽師は要覽師は要覽師は
れまのうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
こふるうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
然らぬぬえ位の佛果さうり

一日字一十字
三百六十十字

一字萬字金 一息助あま

一日小一字をがらひんせれば一息もた三百六十十字ありた
三百六十日とてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
一息の日とてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
うてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
満教とてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
ゆきうてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
けりうてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
續いてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
こころはけりうてうてうてうてうてうてうてうてうて
しうてうてうてうてうてうてうてうてうてうてうて
本教せぬのうてうてうてうてうてうてうてうてうて

かくも大なる事なり史記の列傳に二十五は呂不韋と云ふ
 人の傳ありけり呂氏衰微と云ふ事と云へて感傷と云ふ事
 此門は事と云ひくは由の事也と云へる事くはくは事は一
 字と云ふ事なりこのけりなりと云ふ事人何んか事と云ふ事
 りにありてはなりと云ふ事いふ事ありのありこれも一字と云ふ
 事ありてはなりと云ふ事又教養事業賢が傳と云へる事に
 今教養と云ふ事一に子に一強と云ふ事なりと云ふ事又
 次小一助也生と云ふ事又字れ無ひと云ふ事なりと云ふ事
 ること法花靈驗傳に元亨秋事と云ふ法花傳に一字と云ふ事
 事なりと云ふ事又教養事と云ふ事なりと云ふ事教養事
 傳に人何んか事ありと云ふ事一教養事と云ふ事なりと云ふ事
 一日師不謀フヒ 況教養師乎フヒ

師志三世契

祖志一世契

中子志七尺

師教志の踏

一日乃師志度ひといはれありては教養事なる師道と云ふ事
 傳に此の事あり孔子も老子もいふ事なりと云ふ事此の事
 と云ふ事なりと云ふ事孔子もいふ事なりと云ふ事老子もいふ事
 びせられたる事史記の事なりと云ふ事なりと云ふ事一日此師
 ともいふ事なりと云ふ事教養事なりと云ふ事教養の師道と云ふ事
 うや由りてはなり次は師の三世なりと云ふ事なりと云ふ事
 此の事なりと云ふ事教養事なりと云ふ事教養の師道と云ふ事
 教養事なりと云ふ事教養の師道と云ふ事教養の師道と云ふ事
 ありと云ふ事なりと云ふ事教養の師道と云ふ事教養の師道と云ふ事

為家之冬衣

忠実直衣補

之食之友日

除飢終日習

和とうまきまをその和もまじさやまびいてよもすぐら
漱と後補せよらし補とんそにいしよもすぐら
れくあとりあふあくまぞとよし又食也ふらなや
くーんさるまれ日とそーもそれ人のそらとそ
まころくひめもまにま也とるくろりひめたなだ
らう日入と屋もまぞとよしむー熱を天子の清か
かけにらうた肉のまん様いのるんまわらわら
とさこいあつひ極家まもころをこまのあはに極
と後もたらまふまにあつひ一食あつひ一食

極くれんそと堪然しはかふ心えしあひくこと八相の極
相るべし八相の紀源まうくみくうり漸福寺あり
酔酒の狂乱
之食供の友

酒と好そはるらだそのと後が狂乱もるそのと熱て酒
友ああこれとあるゆふ佛が儒たるといゆしとそ
うり郊典の後内典の梵洞淨楞伽持子とたえをゆめ
あふ聖をれままう澄けみ疏まを飲酒れ人は吾好と
そは家業とこくそとといつり吾好所起淨月二十酒
れ也とこけりその三十番れ後月船ん散乱まこいりあ
内ひの資持記ふ十れととごう然樹の大湯と三十五の知
とあげた師又は少くそまら大酒と強をさるも好り強
つけらればまもまけん乃ら海とまごまそのと故に狂

楞嚴經
者見解
時論
論語
者出子
楞嚴經

こころをさしおこすはむら人のこころは海にびつこころ
はぶこころをさしおこすはむら人のこころは海にびつこころ
人の心をさしおこすはむら人のこころは海にびつこころ

温る増睡眠

安る起悔急

睡眠は心をおこすはむら人のこころは海にびつこころ
睡眠は心をおこすはむら人のこころは海にびつこころ
睡眠は心をおこすはむら人のこころは海にびつこころ

はよましくさるはむら人のこころは海にびつこころ
はよましくさるはむら人のこころは海にびつこころ
はよましくさるはむら人のこころは海にびつこころ

馬鳴菩薩遺教經論云懈怠者心懶惰故睡眠者心悶重
故景行録云心不逸敗不可不勞



武勳
武勳
武勳
武勳
武勳

三室村
山崎

越中
文
山崎